



こんにちは、山本栄です。私は77歳になり、体力の衰えもあって今限りで引退し、斎藤隆雄さんにバトンタッチします。

2000年の旧安代町議初当選以来、みなさんに大変お世話になりました。ありがとうございました。

私に倍するご支援を、斎藤隆雄さんにお寄せください。



日本共産党 八幡平市 安代支部長

# 斎藤たかお

さいとう

隆雄

【略歴】●1957年(昭和32年)旧安代町瀬ノ沢生まれ、59歳●田山小、田山中、県立福岡工業高校電子科卒●76年シャープ株式会社入社(大阪)●91年ダイエー戸田デポ設立(埼玉)●2001年帰郷し、農業に従事●2014年ネクスコ東北入社●八幡平市花卉生産部会役員、市特産果実部会会長●自宅：八幡平市瀬ノ沢37-4 電話 73-2462

\*日本共産党の活動・政策などを紹介します。

こんにちは、日本共産党の斎藤隆雄です。  
山本栄市議のあとを受けて、みんなの  
お役に立てるようがんばります。  
よろしくお願ひします。

## 安倍政権の憲法9条改悪ストップ！ 福祉・暮らしを支援する市政を！

### 八幡平市民報

2017年11・12月 号外  
日本共産党八幡平市委員会  
西根支部 TEL 76-2723  
松尾支部 TEL 74-2565  
安代支部 TEL 73-2701

斎藤たかお

## 私の約束

一般質問をおこない  
みんなの声を市政に届けます

日本共産党には、地域のみなさんからたくさん  
の要望・意見が寄せられています。山本栄市議のよう  
に、議会のたびに一般質問をおこない、みんなの  
声を市政に反映し、国保税引き下げ、学校給食の米  
飯助成と無料化などをめざします。



住民の目線で  
市政をチェックします

日本共産党の議員は、当局の提案が「住民のため  
になるかどうか」を賛否の判断基準にしています。  
市政をチェックし、積極的な提言を行い、みなさ  
んと力を合わせて市政を動かします。



議会と市政の動きを  
お知らせします

『八幡平市民報』の発行、議会報告会やつどいの  
開催、街頭宣伝などで、議会の様子や市政の動きを  
みなさんにお知らせします。

日本共産党は、みんなと一緒に力をあわせ  
『住民が主人公』のまちづくりをすすめます



## 安倍政権の危険な暴走を阻止しましょう

- 安保法制=戦争法の廃止、戦争への道ストップ
- 憲法9条と平和を守ります
- 原発再稼働反対、「原発ゼロ」の日本を
- 消費税10%増税反対
- 農業と地域経済破壊のTPP参加反対

# 斎藤隆雄さんは16年前、家業のリンドウ栽培を継ぐため故郷に

山本栄市議の勇退で、来年4月の市議選への立候補を決意した斎藤隆雄さん。16年前に家業のリンドウ栽培を継ぐため地元に戻り、全国一の生産量と高品質を誇るリンドウ栽培に、人一倍の意欲で取り組んでいます。

## 田山地区瀬ノ沢の生まれ

斎藤さんは1957年(昭和32年)12月、田山地区・瀬ノ沢で生まれ、林業と炭焼きを営む両親と妹の4人家族で育ちました。

瀬ノ沢は、田山地区の国道から県道田山花輪線を北上する、秋田県に近い山間地。当時、この地域には水田がなく、小学校に入るまでは、「ヒエとアワが主食だった」といいます。今でこそ身長179センチの大柄な斎藤さんですが、小学生の頃は「背は低く痩せていて、並び順は前の方」でした。

## 4キロ歩いて通学

4年生までは田山小日泥分校です」とし、5年生からは田山小の本校へ。朝6時半ごろ家を出て4キロの道のりを歩き通しました。



小学校の入学式

。

そんな斎藤さんに、チエンソーデ大けがをした父親から、「高校は行つた方がいい」と言わされ、「中3の秋から猛勉強」「高校を出たら弱電メーカーの仕事を」との思いで、福岡工業高校電子科に入学しました。

高校2年の頃から急に背が伸び始めた斎藤さん。バスケット部に入りましたが、「地区予選で敗退続き」でした。

二戸市で下宿生活をしながら、「勉強が好きでよく勉強した」という斎藤さん。友人とバンドを結成し、市内の行事で演奏したり、瀬ノ沢に戻つて公民館などで演奏し、「楽しい高校生活だった」。

## 父親の一言で高校へ



中学校の修学旅行中の斎藤さん(右)

が、先生のすすめもあって、大手家電メーカーのシャープ株式会社(本社・大阪)に就職することができました。

大阪で入社式の後、広島県、愛知県、奈良県などで研修を受け、東京で家電の修理部門に配属されました。エアコンや冷蔵庫などの修理に携わりました。

13年間勤めたころ、念願だった「独立」を決意。1991年(平成3年)4月、埼玉県戸田市で、ダイエーの下請けとして、エアコンの取り付けや、ダイエー商品を修理する事業を一人で立ち上げました。33歳の時です。

## 父親の病死で故郷に

仕事は順調でしたが、2000年(平成12年)の秋、リンドウ栽培を手掛けていた父親が、69歳で病死。翌年の春、家業のリンドウ栽培を継ぐために、故郷に戻りました。斎藤さんは43歳でした。

## 失敗を重ねながらのリンドウ栽培

リンドウ栽培は、「雪解けから雪が降りはじめるころまで」困難の連続です。「高品質を保つため、検査基準も厳しい」といいます。長年地元を離れていたため、人脈に乏しく、「人手の確保ができなくて、出荷作業が始まると畑を草だらけにしてしまい、株を無くしてしまった失敗もあった」という斎藤さん。母親と妻の3人で懸命の努力をしています。

## 共産党との出会いは山本栄市議

「若いころから政治には無関心だった」という斎藤さん。日本共産党との出会いは、「山本栄さんに会つてから」――。



リンドウのうね立て作業

。

本共産党の斎藤信県議(盛岡市)と山本さんから入党をすすめられました。「年齢的に、今は更、という思いから正直、『エーッ』と思いましたが、共産党への偏見はなく、迷わず決意しました」。55歳でした。

## まさかの「後継者」に

ところが、それだけではありませんでした。昨年の秋、山本さんが斎藤さんに「自分の後継者に」と切り出しました。

今度は、それ以上に「びっくり」。熱心に説く山本さんを前に、「不安だらけだけど」と伝えながら承諾しました。

「山本さんがやつてきたことをそのまますべて引き継ぎ」と決意した斎藤さん。「月日を重ねるうちに自分なりの色を出せる」とも。総選挙直前の希望の党と民進党の動きに、「どうしようもない展開だ」と思った斎藤さん。

「共産党の議席は減らしたけど、民主主義を守る市民との共闘の力の大きさと大切さを知つた」といいます。

## リンドウと山ブドウを16年間

故郷に戻り、リンドウと山ブドウを16年間栽培してきた斎藤さんは、現在、八幡平市花

卉生産部会の役員、市特産果実部会の部会長を務めています。山ブドウの生産量も日本一当選後、斎藤さんは、選挙中に知り合った日

## 涙もらい一面も

背が高く、がつしりした体つきと太い眉毛の斎藤さん。自分の性格を「はつきりものを言うタイプ」と言い、同時に「涙もらい」とも。ドラマを見ているうちに涙ぐみ、小4の息子が



子ども達と一緒に

です。

打ったランニングホームランに涙…。2011年の震災後に、田山小学校で合唱を披露してくれた不来方高校合唱部が、「全国大会3連覇」を果たした最近のニュースにも涙しました。

## 花卉栽培ができる平和な社会を

「リンドウ農家は高齢化し、子どもたちが地元を離れている。孫の世代が地元に戻り、リンドウを続けてくれるのが夢」という斎藤さん。「生活が成り立つ産業、生産者が確保できる、攻めの発展をめざしたい」と強調します。

そして、「平和な社会だからこそ花卉栽培ができる。憲法9条を守る声を、八幡平市からも大きくしたい」とキッパリ――。

## 山本市議の復帰当選を機に入党

2014年(平成26年)の市議選で、斎藤さんは山本さんを積極的に応援。山本さんが復帰当選後、斎藤さんは、選挙中に知り合った日

# 生活が成り立ち、生産者が確保できるリンドウ栽培の発展を